

# 漢字 2 字熟語のプライミング

構造要素情報クロススク립トの呈示とクロスモダリティの呈示

テリー・ジョイス

(筑波大学心理学研究科)

key words: 漢字 2 字熟語、レンマ・ユニット・モデル、構造要素情報

## 目的

Joyce (1999)は、漢字 2 字熟語の単語認知において「前漢字」と「後漢字」のプライミングが同程度に反応を促進する結果から、意味と表記、読みとの 3 者間の複雑な関係を説明するため、Taftら(1999)が発展させた「レンマ・ユニット・モデル」の日本語版を提案している。このモデルでは、レンマ・ユニットが意味表象、表記表象、音韻表象を媒介することが仮定されているため、漢字表記と仮名表記、または音読みと訓読みの処理を統合することが可能になり、日本語心的語彙のモデルとして、より適切であると考えられる。本研究の目的は、モデルの妥当性を確認することであった。そのために、漢字 2 字熟語ターゲットのプライミングとして、ターゲットの「前漢字」と「後漢字」の情報(音読みと訓読み)がクロススク립ト(仮名文字)とクロスモダリティ(聴覚的に)によって呈示される四つのプライミング実験が行われた。

## 方法

**被験者** 筑波大学の学生 180 名(各実験ともに 45 名)。

**刺激** ターゲット刺激として、漢字 2 字熟語が用いられた。熟語は、漢字 2 字熟語の造語原則に基づき、修飾語+被修飾語(M+M)、動詞+補足語(V+C)、補足語+動詞(C+V)、類義語(SP)の 4 種類のいずれかで構成された(造語原則ごとに 30 語)。プライミングとして、仮名文字または聴覚刺激が用いられた。ターゲットとプライミングの関係(プライム・ターゲット条件)から、プライミングが「前漢字」(C1)の情報を表す場合、「後漢字」(C2)の情報を表す場合、プライミング無し(UP)の 3 水準が設けられた。

**手続き** クロススク립トの呈示実験では、注視点(250ms)、仮名文字のプライミング刺激(250ms)、マスク(50ms)、ターゲット刺激(反応まで)という流れであった。クロスモダリティの呈示実験では、注視点に続いて、ヘッドホンによるプライミング刺激呈示、ターゲット刺激(反応まで)という流れであった。

## 結果

実験ごとの平均反応時間を図 1 に示す。分散分析の結果、全ての実験において、造語原則条件とプライミング・ターゲット条件間の交互作用は認められなかった。アイテム分析の結果、全ての実験において、原則条件には有意な差が認められなかった。しかしながら、被験者分析の結果、音読みの 2 つの実験では、M+M が V+C と SP より遅く、訓読み・視覚の実験では、SP が M+M と C+V より速く、訓読み・視覚の実験では、SP が他の水準よりも速かった。

プライミング・ターゲット条件については、音読み・聴覚の実験では、効果が見られなかったが、音読み・視覚の実験では、C1 が他の水準より速かった。また、訓読み・視覚の実験では、C1 と C2 が UP より有意に速かったが、C1 が C2 より有意に速かった。訓読み・聴覚の実験では、C1 と C2 が UP より有意に速かったが、C1 と C2 との間に有意な差が見られなかった。

## 考察

音読みの実験と訓読みの実験間の差異は、同音異義数上の違いによるものと考えられる。音読みの場合、同音異義が比較的多いため、プライミングが語彙判断課題に対して有効な手が

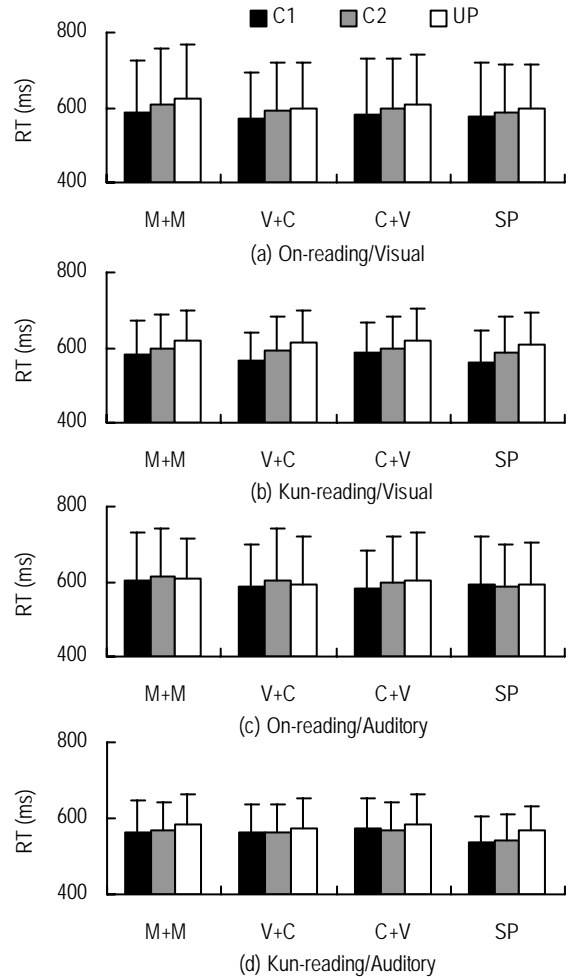


図 1 各造語原則条件における語彙判断課題の反応時間

かりとして機能しなかった可能性がある。しかしながら、音読み・視覚の実験の C1 水準と訓読みの実験において、プライミング効果が認められたことは、レンマ・ユニット・モデルからの予測と一致している。すなわち、クロススク립トの呈示とクロスモダリティの呈示の実験結果は、レンマ・ユニットが表記表象(漢字と仮名の両方)と音韻表象(音読みと訓読みの両方)を媒介している可能性を示唆している。

## 文献

Joyce, T. (1999). Lexical access and the mental lexicon for two-kanji compound words: A priming paradigm study. *Proceedings of the 2nd International Conference on Cognitive Sciences and 16th Annual Meeting of the Japanese Cognitive Science Society Joint Conference*, 27-30 July, Tokyo, 511-514.

Taft, M., Liu, Y., & Zhu, X. (1999). Morphemic processing in reading Chinese. In J. Wang, A. Inhoff, & H.-C. Chen, (Eds.), *Reading Chinese script: A cognitive analysis* (pp 91-113). Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.

(Terry JOYCE)